

# フィードバック

(現場)からの

宮田守男

12月初旬、NPO信州地域社会フォーラムが企画した講演会に参加する。今回は、昭和43年生まれの長野県議会議員の高島陽子さん。来春の県議選長野

市・上水内郡区に立候補を表明している県議会派グリーンライトの代表だ。今回は、「議員の集票力をアップするには、議員とサポーターの課題」をテーマに、フォーラムが提案した「選挙権が18歳に引き下げられ選挙制度の見直しがあっても、市町村や国県のレベルで投票率が50%を下回り、別の言い方をすれば、候補者全員が有権者から不信任を突きつけられている中、現職議員はどの様に考えているのか」を課題に2時間の討議だった。

参加者は、県下から参集したメンバー。各々の政治に対する心情も異なり心配したが、お互いの身近な会話の中で、状況をつかみ取って行く高島さんの話術に圧倒されてしまう。自己紹介で白馬村森上と伝えると、私は森上のグラウンド近く

総合優勝した思い出深い地域だと話してお互いの距離感を引き寄せた。講義冒頭の投票率の推移で、身近な選挙の投票率を尋ねられても即答できない問題意識

「将来、議員を目指そうと思えるような、子供たちへのメッセージを伝え、未来の長野県を託す人材育成が大切」との願いが叶ってほしいと思う。今年参議院本会議で

で山口新聞のコラム四季風は「女編の字は数多いのに、部首としての男はない。「嫁」や「主婦」に女編が付く役割は、今も女性が全て担うのが当たり前」の先入観や身勝手な思い込みで生まれる

と指摘した。女性の社会での活躍は、誰もが疑う余地はない。そんな知恵者の女性の社会での活躍を思い巡らした講義でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

## より良い地域となるには政治に関心と行動が必要だと知る

の教員住宅に家族で住み、北部保育園と2年生まで白馬北小学校に通ったと笑顔を見せる。父は白馬高校スキー部顧問を勤めた山田栄一郎教諭で、昭和51年に開催された全国高校スキー大会で女子

の低さを自覚する。高島さんの問題意識と捉えている「議会活動が見えにくい。議員や候補者を知らない」に県議会での広報委員としての実態を知る事ができる。大学生や子供達に向けた取り組みで

全会一致可決成立した、女性の議員を増やす事を促す「政治分野における男女共同参画推進法」。選挙で男女の候補者数を出来る限り「均等」にするように政党に求めた初めての法律だ。男女の課題



女性問題や政治の課題について熱く語る高島さん